

8-9	主題	ポジショニングクッションの検討	
工夫	副題	ちょっとだけズル賢く！！	
除圧			
研究期間	7ヶ月	事業所	浴風会 特別養護老人ホーム 第二南陽園
発表者：明石たかね・川上由紀江		アドバイザー：	
共同研究者：明石たかね・川上由紀江・北岡修一・熊本薰・秦美樹・藤原長人			
電話	03-3334-2197	メール	dai2@yokuhuukai.or.jp
FAX	03-3334-1748	URL	http://www.yokuhuukai.or.jp
今回発表の事業所やサービスの紹介	杉並区高井戸にある特別養護老人ホーム。入所定員 150 床、別に併設のショートステイ 6 床。入所利用者の平均介護度は、3.9 となっている。		
<p>《研究前の状況と課題》</p> <p>平成 22 年 6 月現在で、入所者 150 名に対し 2 時間毎の体位変換を必要とする方は 85 名、何らかのクッションを使用している方は 103 名である。毎年クッションを補充しても下半期には足らなくなり慢性的な不足が生じていた。その為、タオルや座布団・布団等で代用したり、多種多様のクッションによって使用方法が曖昧になり、ご利用者様へのサービスにバラツキが生じるなど、ポジショニングの統一が図りきれていた。ポジショニングクッションにおいて多く聞かれる意見としては、</p> <ul style="list-style-type: none"> * 心地よく休んでいただきたい * 足りない・代替のクッションがない * 下肢のクッションが一番足りない * クッションの使用方法が曖昧 * 状態に適したクッションがわからない * ポジショニングの統一が図りきれない <p>であった。</p>		<p>《研究の目標と期待する成果》</p> <p>体位変換や除圧できる福祉用具としてのクッションは単価が高く、限られた予算の中で買い揃えるには限界がある。そこで先に掲げた意見を考慮し、昨秋頃より以下のようないくつかの条件を満たしたクッションの検討を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 除圧効果があり軽い ② 下肢へ使用する ③ 安価である ④ シンプルに使用できる <p>しかしながら、クッション自体を作成することは、時間と労力を費やし現実的ではない。よって安価な市販のクッションを工夫して条件を満たせないか検討し、パウダービーズクッションを使用しクッションカバーを工夫する事で条件を満たす事が可能ではないかと考えた。</p> <p>クッションの特徴は、サイズが豊富で様々な形があり安価であるが、伸縮性が大きい為、安易に底つきが生じやすい。その伸縮性に対して、</p>	

布地の特性を活かしたクッションカバーを作成し、過度な沈み込みを抑制したクッションが出来ないかと工夫を開始した。

《具体的な取り組みの内容》

我々は、使い易い形として正方形を選び、45cmサイズ（¥1400）は下肢全体に、30cmサイズ（¥700）は部分補足に使用する事とした。

クッションカバーの布地は化学糸を使用しない綿100%とし、ご利用者様の身体的な特徴へ対応できるように、伸縮性のあるニット編みと、伸縮性のない平織りの2種類のタイプの布地でカバーを作成し、サイズを検討した。

次に、それらのクッションに除圧効果があるか確認するために、スタッフ6名（体格の大きい人・普通・痩せて小柄な人）を被験者とし、携帯型接触圧力測定器パームQ（CAPE社製）を使用して圧力を測定した。測定方法は畳の上を条件（床反力があるため）とし、仰向けでは踵部、横向きで膝間部の圧力をクッションの有無で比較した。クッション無の圧力は約35～80mmHgの範囲で生じ、クッションを使用すると約9～35mmHgと低値となり、硬い床面上においても推奨値の40mmHg以下の圧力数値となり除圧効果が確認できた。なお、ニット編みの方が全体的に低値であった。また、被験者全員より気持ちの良い使用感との意見が得られ、不快等のマイナス意見は聞かれなかった。除圧が確認できたことで、拘縮が強く体位変換が必要な方の中で、6名のご利用者様に対して

特徴に合ったカバーを選択し、2週間クッションを使用した。そして安楽に臥床出来ているか、ポジショニングが統一しやすいか・難しくないかを現場スタッフから意見を聞いた。

《取り組みの結果と評価》

対象ご利用者様の下肢クッション使用数は今まで3～5個であったが、この取り組みにおいては平均大1個、小1個ですんだ。これによって、一人あたりのクッション代金は布地を含め¥3000以内となり、経費が削減されることで多くの購入が期待できる。そして、クッションを使用してのポジショニングは、「分かりやすくなつた」「閉じていた膝が自然に広がってリラックスできていた」「気持ち良さそうに休まれている」「使用数が少ないため統一が可能」との意見が聞かれた。しかしながら、メンテナンスにおいて洗濯乾燥機が使えないなど手間と時間、耐久性の不明確さ、クッションカバー作成におけるマンパワーの確保の問題等が残っており、今後も継続的な検討が必要である。

《まとめ》

この取り組みは発展途上である為、いろいろな方の意見や支援を得、知識を積み重ね、多くのご利用者様が快適に過ごしていただけるよう取り組んでいきたい。そして他施設の取り組みも参考にさせていただき発展させていきたい。

《参考文献》

《提案と発信》

福祉用具は大変良いが、単価が高い物も多い。市販のものを工夫して介護現場に生かす事は、①ご利用者様の状態把握やニーズを深め、気づきの力をつける契機になる②エビデンスに基づく介護の力を成長させてくれる③介護保険料で支えられている施設として費用対効果の高い物を常に検討する必要性がある。業者にも現場の気づきをフィードバックし商品開発を促進させる事などを期待したい。

【メモ欄】追加資料 有 無